

# 石城

發行日 十一月廿一日 (毎月三回)  
編輯兼發行人 齋藤角治  
印刷所 福島縣平町南町七十八番  
發行所 警報之民聲社  
廣告料 普通一頁五十錢  
特別一頁七十錢  
一月十錢 一月廿錢 送料共

福島縣平町  
笠屋商店  
電話九九・九番

## 今秋の縣議戰展望

### 第一正肅舉選

今秋の縣議戰こそは國民の總意に伴ふ選舉肅正の第一次戰であるだけに、馬候補者の信不信任による健一層選舉民の双肩に懸り明瞭なることは歴然たる事柄に屬す。茲に常套を捨て敢然として吾人は縣政運用に充分なる資格識見を有する公正なる士を選舉する事に於て必然目醒つゝある吾人等の責任は潔く達成せらるゝ事となるのである。

## 白水炭礦一帯内案

### 天下の寶庫

陽に反映して緑は燃え、望家として巨富の財力を有し、實業界に名を成してゐる。神奈川炭礦、嶺南炭礦、堅忍不拔の力に身を捧ぐる人、指を屈する人に同所々長矢郷倉の屈いたばかりの眞の働きの盛りに在る氏は平常粗末なる一着の作業服とゲートルに身を包み坑夫のまゝの出立で手甲に汗を拭い、我々黙々として業務の勵精に怠りないのである。謂哉氏の此の精神的力闘は報えられて、今や常磐炭礦界の明星として輝くに至り前途に益々隆昌を指し、進歩の歩を印しつゝある炭礦格者佐藤氏の力量識見と相俟つて信念より出る確固なる業務の

六礦業所がある。各礦とも業績の上に光を放つてゐるが先づ其の開門を飾るに足る杉山炭礦は「杉山優良八尺炭」の名に於て悉く其の聲價は遠近に週知されてゐるが業績愈々上ると共に、常磐炭礦界で羨望の的となつてゐる。數萬坪の廣大なる優良炭埋藏の新礦區よりは既に大成の隆昌に輝きつゝあるが、礦主杉山今朝吉氏は斯界稀に見る謙讓美德の人格者として隠れたる仁徳と精神教育に終始一貫生きたつゝある人であり、風に敬神の念に富み人道上の教化に努めつゝあり、趣味として最ま統術をよくし縣下第一人者の名を恣にしてゐる。

平町地下採掘考察  
螢雪會長 佐藤武之氏談

地表面、被害地下水を多く含む當地一帯の地質が採掘に依つて地下水が欠乏することは何人も否定し得ない事實であつて、新川以南の地下採掘は現在の市街地の地下水も又欠乏すること、地殻が乾燥収縮する事も當然である故に一を掘つて二以上實害を現はす事も有り得る事である。

石城民政黨 院外團を解散す  
院外團長 齋藤岳堂

不肖の身を以つて茲に石城民政黨院外團長として衷心愛護のため努力進所意りなかりしは自己の真心に問へ敢へて俯仰天地に愧ぢざるものありとして確信を強ふして今日に至りし不幸不徳の致す處、今次に於ては比佐代議士、外黨有志各位に對し其の責任觀念の輕々ならざるを痛感、茲に潔く右院外團の解散を聲明することをせり。乞ふ微意を諒察あらんことを。

從無 今や全國津々浦々を通じて神明に誓つて選挙肅正の叫び、新聞紙上選舉違反に關する記事が列記されてゐる。その矛盾たるや甚しく眞に痛癢に堪へざるものがある。要するに選挙民が眞の覺醒が至らざることに因するは勿論だが其奴等の底圖々々しき加減に呆れざるを得ない。如何なる情實に提はるゝとしても、墓穴を掘つて自ら投する馬鹿がある。餘ッ程此奴等は刑務所が志願の奴と見えぬ。

平町 炭礦 平町が今日の發展は附近炭礦のお蔭様だと云ふ者もあるが、世の中は共存共榮だ。炭礦の爲利する所あつた事は事實であるが、平町が炭礦を益して平町に平町としての古歴史を以て今日に到つたのである。炭礦の爲に出来た平町ではない、又炭礦に依つて生きたり平町でもない。若し炭礦なかりせば或は郡山市を凌いでつたかも知れぬ、心ある町民の再考を要することである。有限の一時的事業にたよることには町を誤る。

創刊五週年に際して  
多數有志諸賢の御聲援による賜として本紙は茲に大過なく五週年を迎ふる機運に到達せらるゝは深感謝に不堪處に御座候。而して本紙は將來の向上一層の努力を惜まざるものに有之。尙進んで有志諸賢の御鞭撻と御聲援を冀ふ所以に御座候。

平町の地勢 三丁目常陽銀行前の所で海拔十三尺位、月見橋の處で十尺位の平町。而かも其落差甚だ少く平坦で下水が甚だ不衛生的であることも又止むを得ざる事實である。然るに此の地表に種々なる沈下變化を來たすことは實に重大である。町民諸君も考慮を拂はねばならぬ事である。先年螢雪會が夏井川改修を叫喚したのも實に此のためであつた。

將來の大を見る果して偶然ならずとして折紙を付けて置く。白水炭礦地帯が幾層の繁榮を見せるは白水炭礦の出現による賜として推賞するも決して過言でないことは一般より認識されることには周知の事實である。礦主水野氏は常に此の全礦區一帯に優良炭蘊藏されたることを悉知し、其の採掘を企しつゝあつたが客年多大の經費を投すると共に採掘の機運に到着するや必然の期待に違はず豫想以上の成績を擧ぐるこゝとなつた。而して同炭礦は礦區も廣大なるが故に幾層かの隆昌を招來するに至るべく同炭礦の大成長こそは即ち常磐炭礦界に於ける羨望の的となつてゐる。

平町 炭礦 平町が今日の發展は附近炭礦のお蔭様だと云ふ者もあるが、世の中は共存共榮だ。炭礦の爲利する所あつた事は事實であるが、平町が炭礦を益して平町に平町としての古歴史を以て今日に到つたのである。炭礦の爲に出来た平町ではない、又炭礦に依つて生きたり平町でもない。若し炭礦なかりせば或は郡山市を凌いでつたかも知れぬ、心ある町民の再考を要することである。有限の一時的事業にたよることには町を誤る。

之に懲りて六對六だのなんの権益争奪の私心を捨て、明かに握手し眞に愛町の士として將來に善所することを要する。出般某紙上石川縣議勇退云々の出般某目記事も見るべきもの。川縣議勇退を確知して書いたものが、然らざればデータも投票を知りて比佐氏の本城を守る最期を懸けつゝあるが、果して其の期待に背く所なく着炭以來業務も頗る順調に高階炭礦の同慶に堪へないものがある。

暑中御伺

貴族院議員 金成通

衆議院議員 比佐昌平

衆議院議員 鈴木辰三郎

衆議院議員 佐藤庄太郎

縣會議員 野崎滿藏

縣會議員 石川德壽

縣會議員 萩原義雄

縣會議員 草野三郎

諸橋久太郎

諸橋元三郎

諸橋敬一郎

縣會議員 田子健吉

平町長 青沼鋒太郎

平警察署長 柴田鶴作

縣土木課平監督所長 小林清吉

磐城共濟病院長 醫學博士 石山謙二郎

同 副院長 醫學博士 五十嵐雄二

事務局長 鈴木木實雄

外務局長 業局 技術員 一 同

磐城新聞社長 蓮沼龍輔

小名濱町助役 高木保平

小名濱町收入役 樋口速七

小名濱町會議員 立花雄七

四倉町々長 新妻盛

四倉漁業組合長 菅末吉

四倉町會議員 大和田安太郎

四倉町會議員 長谷川長太郎

四倉町會議員 長谷川酉次郎

江名町々長 河野嘉藏

江名町會議員 近藤吉松

信用之勉強 第一商店

清關内油店 平町一丁目 電話一六番

星のクスリ ストア 平町三丁目 電話四二九

全乳衛生 若松平牛乳舎 平九品寺前 電話二五六

平町會議員 關内正一

平町會議員 多田井笑次郎

平町會議員 佐藤幸太郎

平町會議員 高橋龜松

平町會議員 木澤常松

平町會議員 酒井清

平町會議員 長瀬富彌

平町會議員 長瀬富彌

平町會議員 小次郎

植田殖産株式會社 錦町消防組頭 山崎登

磐城鐵工同業組合 平町 高久病院

平町 木村病院

新川町 木村病院

土木請負 中山組 福島縣石城郡植田町

平町 旅館組合

平町 鷺清昇

植田町 醫師會

味噌醬油製造 坂本龜太郎

消防組頭 額賀醫院

四倉町 木村醫院

四倉町 豐間大敷網會社

平町白銀町 田邊商店 電話二九四番

湯本町 籠倉醫院

湯本町 湯本温泉旅館組合

平町 日進堂製材店

大久村 柳井義一 外吏員一同

平南町 エノパラダイス

なかや洋服店 平町三丁目

大黒屋勝治商店 平三丁目

丸ほん家具店 平三丁目

土邊渡 湯本 料理 磐城 御用

木邊渡 湯本 料理 磐城 御用

請長 湯本 料理 磐城 御用

業作 湯本 料理 磐城 御用

勿來町 小松章

勿來町 大平睦四郎

勿來町 青目田信一郎

清淨第一 豐間村燈臺下 濱屋旅館 電話一九番

風光明媚 宿料低廉 親切本意

波立藥師に近く 奇勝に富む 久之濱 海水旅館 龜屋

湯本 西洋料理店組合

平町 井坂醫院

平南町 增田醫院

富岡町 生駒宗四郎

助役 坂本榮助

雙葉修齋女學校

長塚村 石田醫院

新便局長 龜田政八

長塚村 魚市場

長塚村 渡邊學

平町三丁目 かねまゐ商店 店主 齋藤

入山採炭坑務所

磐城炭礦鑛業所 古河炭礦鑛業所

小田炭礦鑛業所 隅田川炭礦鑛業所

川瀨炭礦鑛業所

內郷村 白水炭礦會

土木 建築 設計 請負 鹽谷茂雄 石城郡平町十五丁目 電話四八〇番

平新川町 諸橋外科醫院

平南町 金成醫院

平南町 織田齒科醫院

平南町 佐藤齒科醫院

湯本町 清野キヨ 産婆學校 樋口看護婦學校

平二丁目 西村藥局 電話三番

平四丁目 關内藥局 電話四〇番

平五丁目 小野藥局 電話一四四番

家具の御用命は 和久井屋 平一丁目 電話四〇番

活動 世界館

活動 平館

常活動 惠原興業部